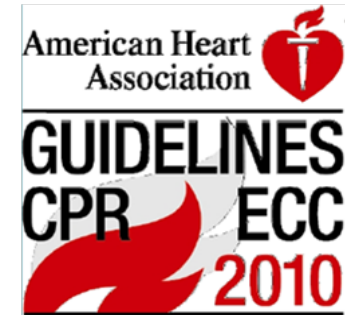


BLSヘルスケアプロバイダーマニュアル

2010 AHA CPRとECCガイドラインに基づいた

比較表



BLSの変更			
	新	旧	理論的根拠
CPR	<p>胸骨圧迫、気道確保、人工呼吸(C-A-B)</p> <p>新しい科学により以下の手順に従う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 傷病者の意識と呼吸を確認する 2, 助けを呼びAEDを準備する 3, 脈拍を確認する 4, 30回の胸骨圧迫を行う 5, 気道確保を行い、2回の人工呼吸を行う 6, 胸骨圧迫を続ける 	<p>気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫(A-B-C)</p> <p>これまでは、反応の確認の後に助けを呼び、気道を確認し、呼吸を確認した後2回の人工呼吸を行い、その後、脈拍の確認と胸骨圧迫が行われていた</p>	<p>人工呼吸は心肺蘇生において重要な部分ではあるが、エビデンスでは胸骨圧迫が成人の蘇生において最も重要な要素である。A-B-C手順では、胸骨圧迫はしばしば遅れる。C-A-B手順に変更することで、より早く胸骨圧迫を開始することが可能となる。</p>
	<p>胸骨圧迫は心停止の認識から10秒以内に開始されなければならない。</p>	<p>胸骨圧迫は気道確保をして、呼吸を確認し、人工呼吸を行い、脈拍の確認の後に開始される。</p>	<p>人工呼吸は心肺蘇生において重要な部分ではあるが、エビデンスでは胸骨圧迫が成人の蘇生において最も重要な要素である。救助者が気道確保と人工呼吸をしている間に胸骨圧迫の開始はしばしば遅れてしまう。</p>
	<p>胸骨圧迫は少なくとも1分間に100回以上のスピードで行う。各30回の胸骨圧迫は約18秒もしくはそれ以下で行う</p>	<p>胸骨圧迫は1分間に約100回のスピードで行う。各30回の胸骨圧迫は23秒以内に完了する。</p>	<p>より早い胸骨圧迫が冠動脈と脳を灌流するのに必要な圧力を発生するために要求される。</p>
	<p>胸骨圧迫の深さは以下の通りである。</p> <p>成人: 少なくとも2インチ(5cm)</p> <p>幼児: 少なくとも胸郭の厚みの1/3以上で約2インチ(5cm)</p> <p>乳児: 少なくとも胸郭の厚みの1/3以上で、約1.5インチ(4cm)</p>	<p>胸骨圧迫の深さは以下の通りである。</p> <p>成人: 1.5~2インチ</p> <p>幼児: 胸郭の厚みの1/2~1/3</p> <p>乳児: 胸郭の厚みの1/2~1/3</p>	<p>より深い胸骨圧迫が冠動脈と脳を灌流するのに必要な圧力を発生するために要求される。</p>

<p>気道確保と人工呼吸</p>	<p>輪状軟骨圧迫はもはやルーチンには人工呼吸の際に推奨しない</p> <p>「見て、聞いて、感じて呼吸を確認する」ことは気道確保後の呼吸の評価手順から削除する。ヘルスケアプロバイダーは心停止を確認する際の反応の有無を確認するとき、呼吸をしていないかを手短かに確認する。30回の胸骨圧迫の後、救助者が一人であれば気道を確保し、2回の人工呼吸を行う。</p>	<p>十分な数の救助者がいれば1名が輪状軟骨圧迫を行う</p> <p>気道確保の後、「見て、聞いて、感じて呼吸を確認する」ことを呼吸の評価として用いる。</p>	<p>無作為試験において輪状軟骨圧迫でも誤嚥を予防できなかった。また救助者が正しくできるように訓練を行うことは困難である。</p> <p>新しい胸骨圧迫をはじめに行う手順では、CPRは成人の傷病者が反応が亡く、呼吸をしていないか、正常な呼吸でない場合（無呼吸か死戦期呼吸のみの場合）胸骨圧迫から開始する（C-A-B手順）。従って呼吸は心停止の確認の一部として短時間で確認される。はじめの胸骨圧迫の後、気道確保を行い、救助者は2回の人工呼吸を行う。</p>
<p>AEDの使用</p>	<p>1歳から8歳の幼児にはAEDは可能であれば小児用に出力を減衰するシステムを用いるべきである。もし減衰システムが使用できない場合には通常のAEDを使用してよい。</p> <p>乳児(1歳未満)については手動式の除細動器が望ましい。もし手動式除細動器が使用できない場合には、小児用に出力を減衰するシステムを用いることが望ましい。もしいずれも使用できない場合には出力減衰システムのないAEDを使ってもよい。</p>	<p>幼児については変更なし。2005年には乳児のAED使用についての十分なエビデンスがなかった。</p>	<p>乳児と幼児に対しての効果的で最小限の除細動出力については知られていない。安全な最大出力も不明であるが、4J/kg以上(9J/kgまで)の出力が幼児例と幼児の心停止の動物モデルでも有効な除細動として規定されており、有害事象はない。</p> <p>AEDは相対的に高出力であるが、乳児の心停止に使用され、明らかな有害事象は発生しなかった。</p>